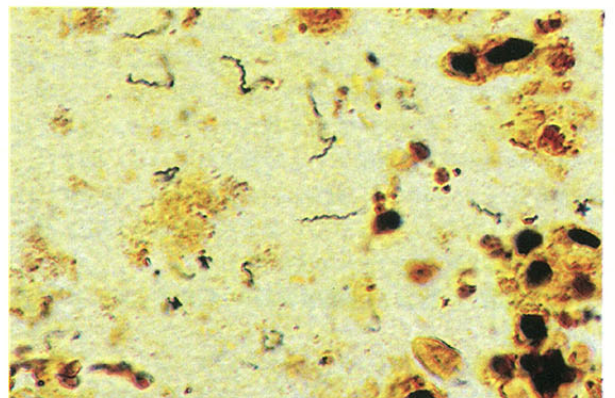
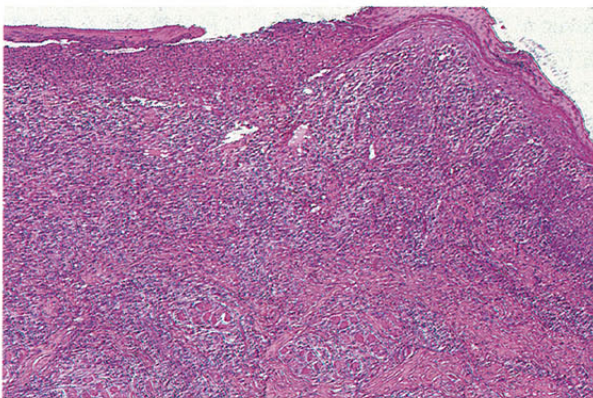


I. 細菌感染症



第二期梅毒(HE 染色と Warthin-Starry 染色)

症例は 24 歳男性。下口唇にびらん性丘疹を主訴に来院。臨床的に granuloma pyogenicum を疑われ、生検が行われた。真皮から皮下組織にわたって、小リンパ球と形質細胞の顕著な浸潤ならびに血管内皮細胞の腫大を認める。病変中央部表皮はびらん化している。びらん面の滲出物内には、Warthin-Starry 染色陽性の大型らせん菌が多数観察され、第二期梅毒と病理診断された。臨床診断のついていない梅毒性病変に遭遇する頻度は決してまれではない。HE 染色で梅毒の可能性が考えられるかどうかは診断のカギといえる。